

伝統を繋ぐ仕事

平城宮跡歴史公園 第一次大極殿院 東楼 復原整備工事



※揚重物は各柱に定着した状態

私が紹介します！



竹中工務店 大阪本店 作業所 建築担当
たにざき しゅんすけ
谷崎 俊介
2019年入社(28歳)
最近のニュース
12月に結婚したので家に帰るのが楽しみです。

この特集は3部作構成でお送りします。

仕事への取組み

我々の仕事は安全や品質を確保しながら設計図通りのものを期日まで完成し、引き渡すできるように計画・調整して作り込み、日々の検査などを通して管理することです。
仕事で大切にしていることは、その道のエキスパートである職人さんに指示する立場として、感謝の言葉を伝えることや職人さんの声に真摯に耳を傾けることです。そうして出来上がる作品はやはり綺麗だと思います。
一見とてもありきたりなことですが、技術がどれだけ進歩しても一番大切なものは昔から変わらないと思います。

作業所メンバー



左から
高岡秀和、宮本宗樹現場代理人、藤原勇所長、森田誠人、時川敬
陽本哲平、橋本慧、谷崎俊介(私)、矢田浩二

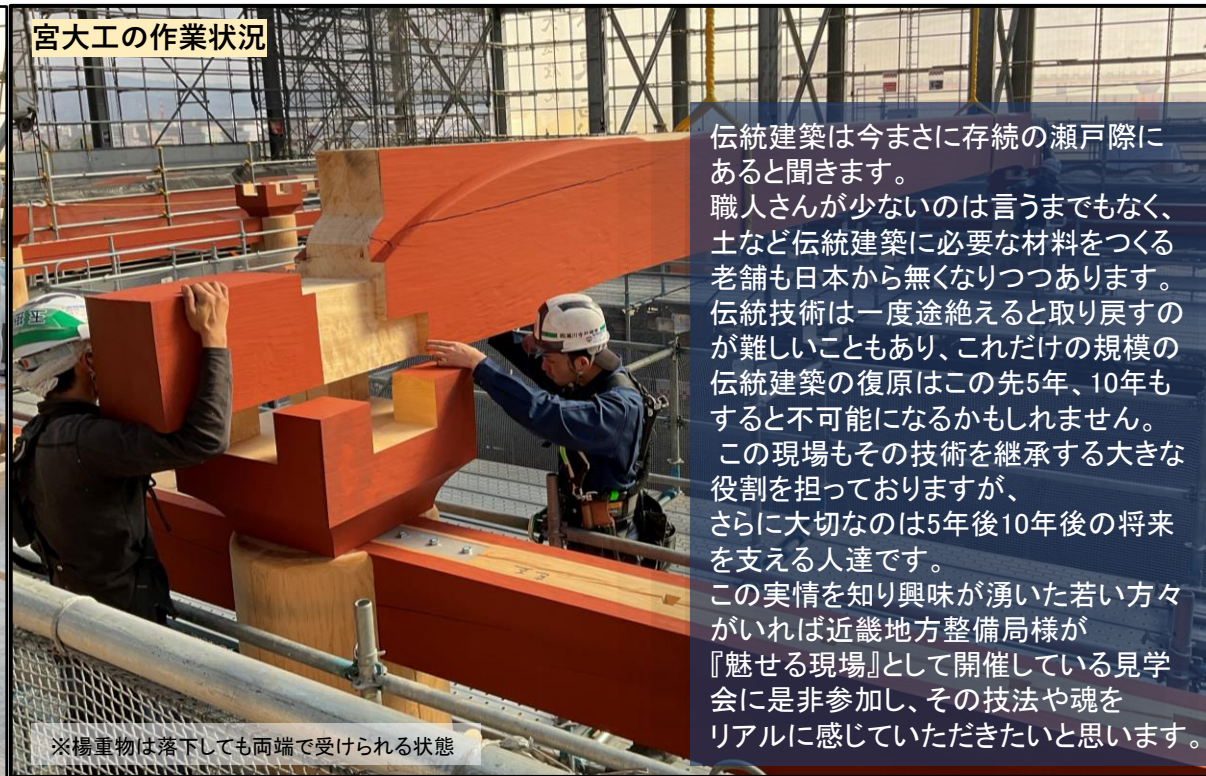
完成イメージ



検査の様子



宮大工の作業状況



伝統建築は今まさに存続の瀬戸際にあると聞きます。
職人さんが少ないのは言うまでもなく、土など伝統建築に必要な材料をつくる老舗も日本から無くなりつつあります。伝統技術は一度途絶えると取り戻すのが難しいこともあり、これだけの規模の伝統建築の復原はこの先5年、10年もすると不可能になるかもしれません。
この現場もその技術を継承する大きな役割を担っておりますが、さらに大切なのは5年後10年後の将来を支える人達です。
この実情を知り興味が湧いた若い方々がいれば近畿地方整備局様が『魅せる現場』として開催している見学会に是非参加し、その技法や魂をリアルに感じていただきたいと思います。

※揚重物は落下しても両端で受けられる状態